

第5章 まとめ

第1節 住吉宮町遺跡第33次調査のまとめ

- はじめに 住吉宮町遺跡第33次調査の調査の成果について以下に要点を箇条書きし、本報告のまとめとしたい。
- 第1面 奈良時代～平安時代前半の遺構面である。掘立柱建物跡、土抗、溝、柱穴を検出した。庇付き建物が今回初めて住吉宮町遺跡で検出され、当地点周辺が律令期の集落の中心であった可能性も考えられるようになった。
- 第2面 古墳時代後期の遺構面である。明確な遺構は検出されていないが、地震による痕跡を検出した。地震の痕跡は砂脈と地滑り痕で、慶長元（1596）年に発生した伏見地震に伴うものであると判明した。
- 第3面 弥生時代終末期の遺構面である。竪穴住居跡、土抗、溝、柱穴、土器溜まりを検出した。調査区中央の谷状地形を挟んで9棟の住居跡を検出した。また、弥生時代中期初頭の土器が検出され、当該期から周辺が開発され始めることが判明した。また、土器の胎土内に混入していた管玉状土製品については、類例の増加をもって再度検討する必要がある。

第2節 住吉川右岸の遺跡分布の様相

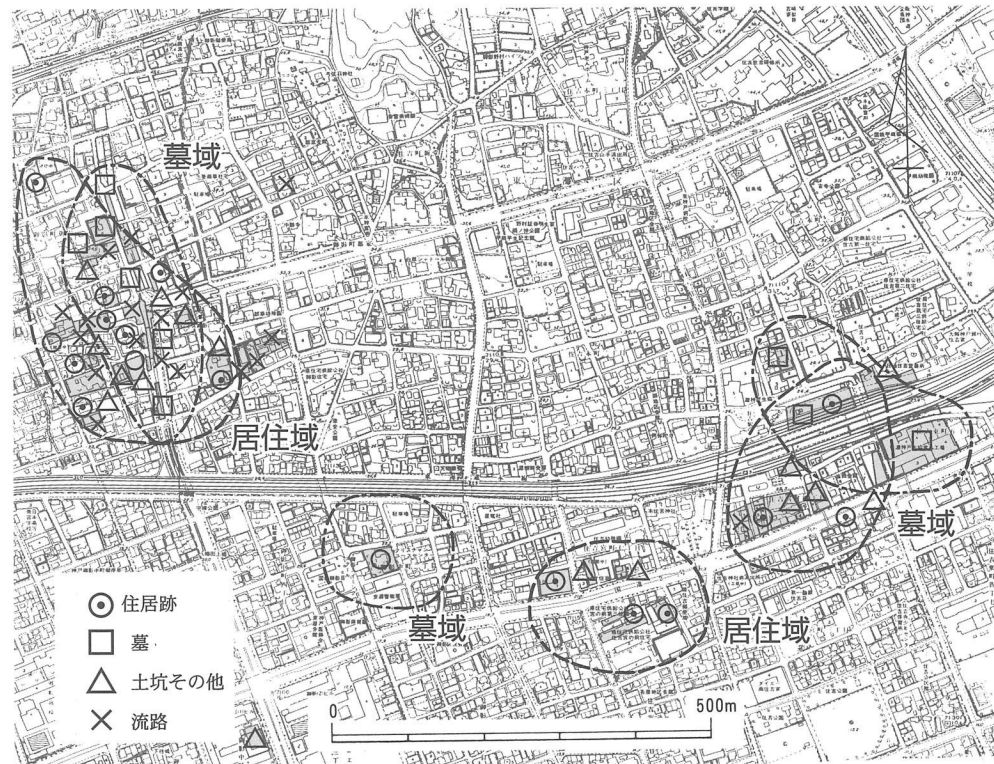
- はじめに 住吉川右岸の遺跡分布の様相を時期別に概観したい。具体的には住吉宮町遺跡と郡家遺跡の既往の調査を見直し概観することとする。この試みは以前に古川氏によって行われているが（古川1995）、その後震災に伴う発掘調査の件数が増大したため、資料も増加し新見も加わったことから、今回あらたにまとめることとする。
- 時期区分 両遺跡を概観するにあたって、（Ⅰ期）弥生時代後期～古墳時代前期、（Ⅱ期）古墳時代中期～同後期末、（Ⅲ期）奈良時代～平安時代、（Ⅳ期）中世前半の4時期に大別する。両遺跡は住吉川右岸の同様な地形上に立地するため、ともによく似た遺跡（遺構）の消長を示す。また、この時期区分は、先の古川氏の分類を踏襲するものでもある。
- 地区の設定 住吉宮町遺跡を東西に分割して、住吉宮町遺跡（東半）、同（西半）と呼称する。現在の本住吉神社付近の埋没河道（谷部）を挟んで古墳時代までは遺跡を東西に分割でき、有効な区分である。ただし、谷部の埋没した奈良時代以降は、東西の境界は不明瞭でもはや線引きできない。郡家遺跡については、これまでに神戸市教育委員会が用いている郡家遺跡（城ノ前地区）など小字による地区名称をそのまま使用する（第65図）。

Ⅰ期（弥生時代後期～古墳時代前期）（第66図）

- 遺構 主な遺構は竪穴住居跡、墓（周溝墓、土器棺墓）、土抗、流路などである。
- 居住域 居住域は、住吉宮町遺跡（東半）、同（西半）、郡家遺跡（城ノ前地区）で検出されている。住吉宮町遺跡を東西で二分したのは、第32次調査で検出された調査区西端の南北方向の谷地形ないし流路で埋没微地形が大きく分断されるためである。



第65図 住吉宮町遺跡と郡家遺跡の既往の調査

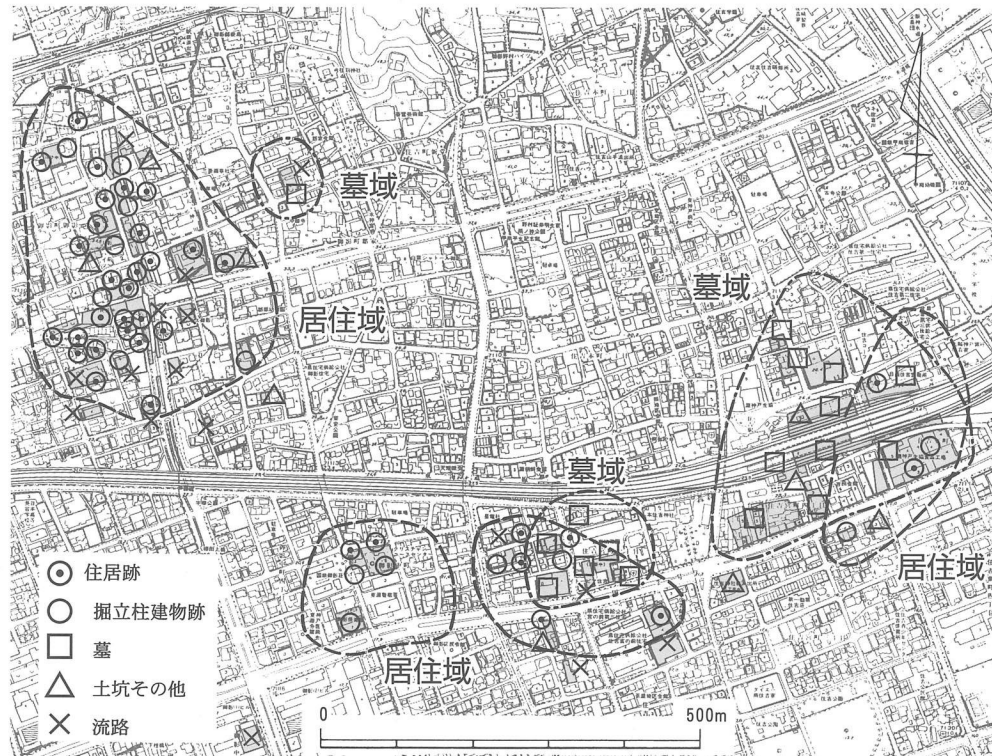


第66図 住吉川右岸の遺跡の様相 (I期)

- 墓域** 墓域は住吉宮町遺跡（東半）、郡家遺跡（御影中町地区）、同（城ノ前地区）で検出されている。検出された墓は周溝墓で、円形周溝墓、方形周溝墓の両方が検出されている。また、明確な区画を持たない土器棺墓も検出されている。
- 流路** 郡家遺跡全域で流路が検出されている。洪水の多い不安定な地形と考えられるが、居住域（城ノ前地区）と重複している。住吉宮町遺跡では第32次調査で埋没微高地を分断する大規模な流路が検出されている。
- 特徴** 住吉宮町遺跡（東半）、郡家遺跡（城ノ前地区）では居住域に近接して墓域が形成されている。弥生時代の通有のあり方であろう。住吉宮町遺跡（西半）の墓域は確認されていないが、あるいは郡家遺跡（御影中町地区）の墓がそうである可能性も考えたい。

II期（古墳時代中期～後期末）（第67図）

- 遺構** 主な遺構は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、古墳、土抗、流路などである。
- 居住域** 居住域は、住吉宮町遺跡（東半）、同（西半）、郡家遺跡（城ノ前・岸本・篠ノ坪・地藏元・大蔵地区）、同（御影中町地区）で検出されている。あるいは住吉宮町遺跡（西半）と御影遺跡（御影中町地区）をまとめてひとつの居住域と考えられるかもしれない。住吉宮町遺跡（東半）の居住域は東へ移動し、同（西半）はI期の範囲を踏襲するが、住居跡の数は倍増する。郡家遺跡（城ノ前地区その他）についてはI期に網の目状に流れていた流路の多くが埋没し、居住域が拡大する。御影遺跡（御影中町地区）は住吉宮町遺跡（西半）から拡大したものとも考えられる。
- 墓域** 古墳が住吉宮町遺跡（東半）、同（西半）、郡家遺跡（下山田地区）で検出されている。「住吉宮町古墳群」は、1985年以降新たに判明してきた埋没古墳群である。坊ヶ塚古墳（前方



第67図 住吉川右岸の遺跡の様相（Ⅱ期）

後円墳、推定全長57m）を古墳群造営の契機とするもので、住吉東古墳（帆立貝形古墳、全長23m）をはじめ、方墳群と墳丘を持たない石棺墓群で構成されている。方墳群の埋葬施設は木棺および石棺を直接埋葬するものである。古墳の空白地帯を挟んで、古墳群を東半と西半に二分できる。国道2号より南では検出されないことから、国道2号付近が当該期の扇状地末端の傾斜変換点であったものと推定される。古墳時代中期から後期前半に盛行する。ただし、郡家遺跡（下山田地区）の古墳群は横穴式石室を埋葬施設とするもので、古墳時代後期後半のものである。

なお、住吉宮町遺跡の古墳群については、近年安田氏によってまとめられており（安田2001）、個々の古墳の詳細はそちらを参照されたい。

生産域

郡家遺跡（御影中町地区）で水田跡が検出されている。今回の調査の結果、第2面が水田跡であった可能性を既に述べた。国道2号付近に当時の傾斜変更点が復元されることから、当該期は現国道2号以南に生産域が展開していた可能性が考えられる。

特徴

居住域と墓域が分化する。また、当該期に両遺跡で居住域は大きく拡大し、六甲山地南麓でも拠点的な集落となる。墓域は、中期から住吉宮町遺跡で造営され始め、周辺の墓域は当遺跡に集約される。その後、後期前半には造墓活動は終息する。そして、後期後半以降、六甲山地南麓の丘陵から段丘域にかけて築かれた横穴式石室を埋葬施設とする古墳群（野寄群集墳など）に墓域は移行する。ただし、近年、郡家遺跡（下山田地区）や住吉宮町遺跡第18・32地点でも横穴式石室が検出されており、両地域が並存する移行期を経て、北方の六甲山地南麓の丘段から段丘域へ墓域が移動したものと考えられる。六甲山地南麓地域では、芦屋川流域でも同様に後期後半に丘陵域で横穴式石室を埋葬施設とする古墳群が新たに造営され始める。石室を構築する石材を求めての移動と理解される。



第68図 住吉川右岸の遺跡の様相（Ⅲ期）

Ⅲ期（奈良時代～平安時代）（第68図）

遺構

主な遺構は、掘立柱建物跡、井戸、土抗、流路などである。

居住域

居住域は、住吉宮町遺跡と郡家遺跡のほぼ全域で検出されているが、JR 神戸線を挟んで南北2地域に分けることができる。南側地域は住吉宮町遺跡と郡家遺跡（御影中町地区）をあわせた範囲で、当該期では一連の遺跡と考えたい。北側地域はⅡ期の郡家遺跡（城ノ前地区その他）の範囲の東半分規模に縮小したもので、下山田・大蔵地区にその中心は移動する。

特徴

居住域は、住吉宮町遺跡と郡家遺跡のほぼ全域で検出される。

兎原郡衙

律令期、当地域は摂津国兎原郡の範囲にあたり、中でも郡家遺跡は「郡家」「大蔵」といった地名などから兎原郡衙に比定されている。しかし、近年住吉宮町遺跡（第23次調査）で井戸、瓦、硯、墨書土器（「橘東家」「免」）などが検出されており、むしろ住吉宮町遺跡のほうがより官衙的な様相を呈してきた。今回の調査で検出された庇付きの建物もそれを補強する材料となろう。

Ⅳ期（中世前半）（第69図）

遺構

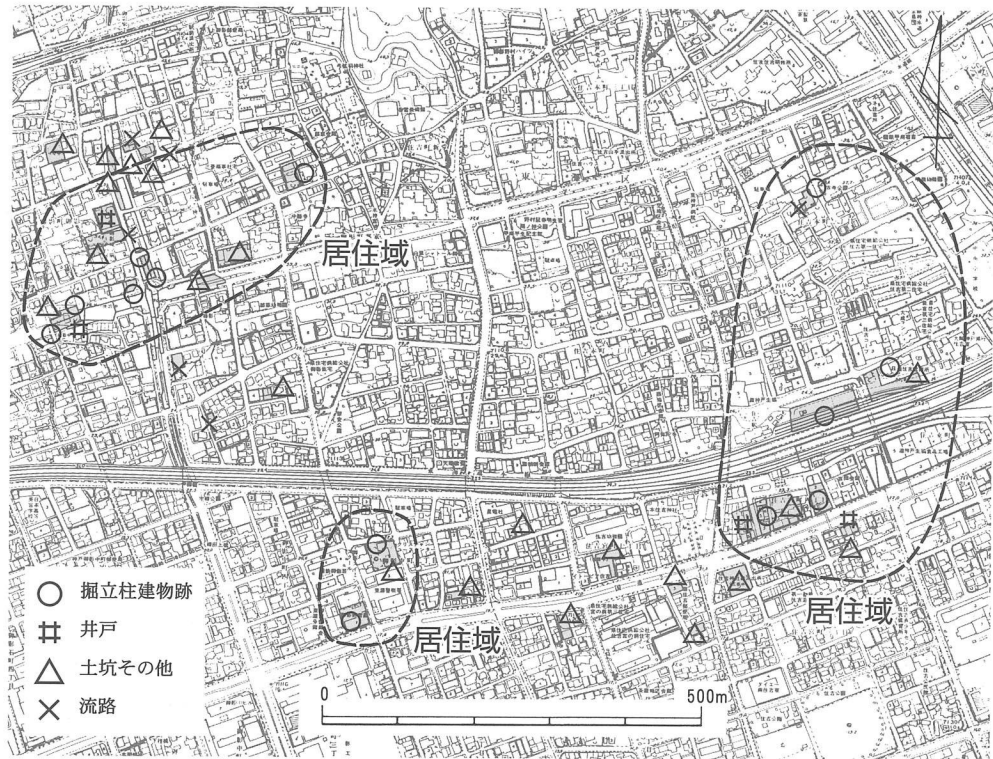
主な遺構は、掘立柱建物跡、井戸、土抗、流路、採石遺構などである。

居住域

居住域は、住吉宮町遺跡（東半）、郡家遺跡（城ノ前・地藏元・下山田地区）と同（御影中町地区）で検出されている。Ⅲ期に比べやや散在する。

採石遺構

当該期には、花崗岩の採石遺構が住吉宮町遺跡（第11次調査）、郡家遺跡（城ノ前38次調査）で検出されている。当該地一帯で認められる洪水起源の堆積層に含まれる1辺1m以上もある花崗岩を利用したもので、花崗岩を石材として掘り起こし、加工した痕跡であ



第69図 住吉川右岸の遺跡の様相 (Ⅳ期)

る。のちの近世初頭には採石地は北方の六甲山麓に移動し、その花崗岩の集積・加工地として住吉川の西を南流する石屋川下流域に石材加工業者が集住するようになる。当地域で産出する花崗岩は、御影石の名で近世以降特産品となる。

特徴

当該地は早くから市街化した地域であり、上層については既に攪乱を受け削平されていることが多く、資料的な制約があるため単純に前段階と比較できない。このことは、前段階ほど洪水による土砂の堆積が減少し、より現地形に近い地形になったことをも意味する。

小結

以上の検討結果から、当地域の遺跡群は洪水や土石流など自然災害のたびに地形環境が変化し、それに応じた土地利用を展開していった。したがって、住吉川右岸という大きく括られた範囲内に立地する住吉宮町遺跡と郡家遺跡は同様の遺跡（遺構）の消長を示し、補完関係にある一連の遺跡群として理解できる。したがって、現行政区により括られた遺跡の範囲にとらわれず、両遺跡を巨視的にみる必要があろう。

さらに予察として、これまで調査の実施されていない住吉宮町遺跡北側、郡家遺跡東側の範囲は、住吉川右岸でも低位段丘面上（段丘化する以前の扇状地でも特に扇央部）にあたることから、未周知の遺跡が埋没しており、住吉宮町遺跡・郡家遺跡と同様の補完関係にある一連の遺跡となる可能性も考えられる。

第3表 郡家遺跡調査一覧表(1)

総次数	地区	地区次数	年度	調査概要	備考	文献
1	大蔵	OR 1 次	1979	I 期流路、Ⅲ期掘立柱建物跡		3
2	御影中町	MN 1 次	1981	Ⅱ期柱穴群・祭祀土抗・Ⅲ期柱穴群		4
3	天神川	TJ 1 次	1982	I 期方形周溝墓・流路、Ⅲ期柱穴		5
4	城ノ前	SM 1 次	1983	I 期土抗・柱穴・流路		6
5	地藏元	JM 1 次	1983	Ⅳ期土抗・柱穴・流路		6
6	城ノ前	SM 2 次	1983			6
7	地藏元	JM 2 次	1983			6
8	城ノ前	SM 3 次	1983	I 期方形周溝墓・流路	旧TJ 2 次	6
9	天神川	TJ 3 次	1983			6
10	城ノ前	SM 4 次	1983			6
11	城ノ前	SM 5 次	1984	I～Ⅳ期流路	旧TJ 4 次	7
12	天神川	TJ 5 次	1984			7
13	千本田	TF 1 次	1984			7
14	城ノ前	SM 6 次	1984	I 期周溝墓・土抗、Ⅱ期竪穴住居跡、Ⅳ期土抗・柱穴群		7
15	城ノ前	SM 7 次	1984	I～Ⅳ期流路、Ⅱ期竪穴住居跡・掘立柱建物跡、Ⅳ期柱穴		7
16	城ノ前	SM 8 次	1984			7
17	城ノ前	SM 9 次	1984			7
18	城ノ前	SM11次	1984	Ⅱ期竪穴住居跡・土抗・溝・柱穴、Ⅳ期土抗・溝		7
19	城ノ前	SM12次	1985	I 期土器棺墓、Ⅱ期竪穴住居跡、Ⅳ期掘立柱建物跡		8
20	城ノ前	SM13次	1985	Ⅱ期竪穴住居跡・土抗・柱穴群		8
21	城ノ前	SM14次	1985	I 期竪穴住居跡、Ⅱ期竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土抗墓		8
22	城ノ前	SM15次	1985	Ⅱ期竪穴住居跡・土抗・溝・柱穴		8
23	城ノ前	SM16次	1985	Ⅱ期掘立柱建物跡・土抗、Ⅳ期土抗・溝・柱穴		8
24	岸本	KM 1 次	1985	Ⅱ期竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝、Ⅳ期溝		8
25	下山田	SY 1 次	1986	Ⅱ～Ⅲ期掘立柱建物跡		9
26	城ノ前	SM17次	1986	Ⅱ期竪穴住居跡・溝、Ⅲ～Ⅳ期柱穴群		9
27	城ノ前	SM18次	1986	Ⅱ期竪穴住居跡、Ⅳ期溝		9
28	城ノ前	SM19次	1986	I 期竪穴住居跡		9
29	城ノ前	SM20次	1986	I 期流路		9
30	城ノ前	SM21次	1986	Ⅱ期竪穴住居跡、Ⅳ期掘立柱建物跡		9
31	城ノ前	SM22次	1986	Ⅱ期竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土抗・溝		9
32	城ノ前	SM23次	1986	I 期掘立柱建物跡、Ⅱ期竪穴住居跡、Ⅳ期掘立柱建物跡		9
33	上山田	UY 1 次	1986	なし		9
34	下山田	SY 2 次	1987	Ⅱ～Ⅲ期掘立柱建物跡		10
35	城ノ前	SM24次	1987	I 期集石墓、Ⅱ期竪穴住居跡・掘立柱建物跡、Ⅳ期掘立柱建物跡		10
36	下山田	SY 3 次	1987			10
37	城ノ前	SM25次	1987	Ⅱ期竪穴住居跡・柱穴群、Ⅱ～Ⅲ期溝・流路		10
38	大蔵	OR 2 次	1987	I 期流路、Ⅱ期掘立柱建物跡		10
39	城ノ前	SM26次	1987	I 期流路、Ⅱ期竪穴住居跡		10
40	大蔵	OR 3 次	1987	I 期竪穴住居跡・土抗、Ⅲ期掘立柱建物跡		10
41	城ノ前	SM27次	1987	I 期流路、Ⅳ期掘立柱建物・土抗		10
42	城ノ前	(SM28次)	1987	なし		10
43	岸本	KM 2 次	1987	I 期竪穴住居跡、Ⅱ～Ⅲ期土抗		10
44	地藏元	JM 3 次	1987	Ⅱ期竪穴住居跡・土抗、Ⅳ期溝		10
45	城ノ前	SM28次	1988	I 期竪穴住居跡、Ⅱ期竪穴住居跡		11
46	御影中町	MN 2 次	1988	Ⅱ期竪穴住居跡・掘立柱建物跡・祭祀土抗、Ⅲ期柱穴群		11
47	御影中町	MN 3 次	1988	Ⅱ期水田跡		12
48	大蔵	OR 4 次	1989	I 期流路、Ⅱ～Ⅲ区土抗・柱穴		13
49	御影中町	MN 4 次	1989	I 期周溝墓、Ⅱ期竪穴住居跡・掘立柱建物跡、Ⅳ期掘立柱建物跡		14
50	篠ノ坪	ST 1 次	1989	I～Ⅱ期流路		13
51	城ノ前	SM ①次	1990	Ⅱ期竪穴住居跡・溝、Ⅳ期石垣遺構・柱穴群		15
52	城ノ前	SM ②次	1990			16
53	城ノ前	SM ③次	1990			
54	城ノ前	SM30次	1990	Ⅱ期土抗・柱穴、Ⅳ期土抗・溝・柱穴・流路		17

第4表 郡家遺跡調査一覧表(2)

総次数	地区	地区次数	年度	調査概要	備考	文献
55	城ノ前	SM④次	1991	I期掘立柱建物跡・土抗・溝・柱穴		18
56	篠ノ坪	ST2次	1991	I期竪穴住居跡・溝・柱穴・流路		18
57	篠ノ坪	ST3次	1991	I期流路・IV期土抗		18
58	御影中町	MN5次	1991	II期竪穴住居跡・土抗・流路、III期土抗・溝		18
59	篠ノ坪	ST4次	1991	I期溝		18
60	篠ノ坪	ST5次	1992	I期竪穴住居跡・土抗・溝・流路、II期竪穴住居跡・流路		19
61	篠ノ坪	ST6次	1992	I期流路、II期竪穴住居跡、IV期柱穴		19
62	篠ノ坪	ST7次	1992	II期流路		19
63	篠ノ坪	ST8次	1992	I期流路、II期土抗		19
64	篠ノ坪	ST9次	1992			19
65	篠ノ坪	ST10次	1993	I期溝、II期掘立柱建物跡・流路		20
66	下山田	SY4次	1993	I～II期柱穴・流路、II期古墳、IV期掘立柱建物跡		21
67	篠ノ坪	ST11次	1993	I期流路、II期溝・流路		21
68	篠ノ坪	ST12次	1993	I期溝		21
69	岸本	KM3次	1994	II期掘立柱建物跡・土抗・溝		22
70	篠ノ坪	ST13次	1995	II期掘立柱建物跡・溝・柱穴、II～期柱穴・流路		23
71	大蔵	OR5次	1995	II期柱穴、IV期溝・柱穴		23
72	城ノ前	SM32次	1995	I～IV期流路		23
73	城ノ前	SM33次	1995	I期竪穴住居跡、II期竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝		23
74	城ノ前	SM34次	1995	II～IV期流路		23
75	御影中町	MN6次	1996	IV期土抗・柱穴		24
76	篠ノ坪	ST14次	1996	II期竪穴住居跡		24
77	城ノ前	SM35次	1997	I期竪穴住居跡、II期竪穴住居跡・掘立柱建物跡		25
78	城ノ前	SM36次	1997	I～IV期土抗・落ち込み・柱穴		25
79	城ノ前	SM37次	1997	II期竪穴住居跡、III期掘立柱建物跡		25
80	城ノ前	SM38次	1997	I期土抗・溝・柱穴、II期流路、IV期採石跡		25
81	大蔵	OR6次	1997	II～IV期流路		25

参考文献

- (1) 古川久雄 1995 「住吉川右岸扇状地における遺跡分布の様相」 六甲山麓遺跡調査会『郡家遺跡—篠坪地区第10次調査—』
- (2) 安田滋 2001 「まとめ 「住吉宮町古墳群」について」 神戸市教育委員会『住吉宮町遺跡第24次・第32次調査報告書』
- (3) 神戸市立考古館1980『地下にねむる神戸の歴史展—発掘現場からの報告—』
- (4) 神戸市教育委員会 1983 『昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (5) 神戸市教育委員会 1985 『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (6) 神戸市教育委員会 1986 『昭和58年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (7) 神戸市教育委員会 1987 『昭和59年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (8) 神戸市教育委員会 1988 『昭和60年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (9) 神戸市教育委員会 1989 『昭和61年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (10) 神戸市教育委員会 1990 『昭和62年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (11) 神戸市教育委員会 1994 『昭和63年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (12) 神戸市教育委員会 1990 『郡家遺跡』
- (13) 神戸市教育委員会 1992 『平成元年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (14) 大手前女子大学史学研究所 1992 『郡家遺跡—御影中町地区第4次調査—』
- (15) 淡神文化財協会 1990 『淡神文化財協会ニュース』創刊号
- (16) 淡神文化財協会 1990 『淡神文化財協会ニュース』2～5号
- (17) 神戸市教育委員会 1993 『平成2年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (18) 神戸市教育委員会 1994 『平成3年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (19) 神戸市教育委員会 1995 『平成4年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (20) 六甲山麓遺跡調査会 1995 『郡家遺跡—篠坪地区第10次調査—』
- (21) 神戸市教育委員会 1996 『平成5年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (22) 神戸市教育委員会 1997 『平成6年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (23) 神戸市教育委員会 1998 『平成7年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (24) 神戸市教育委員会 1999 『平成8年度神戸市埋蔵文化財年報』
- (25) 神戸市教育委員会 2000 『平成9年度神戸市埋蔵文化財年報』